

# 織部という陶器

北大路魯山人

青空文庫



私の独断によると、織部という陶器は、古田織部という茶人の意匠及び発明に始まるものではない。

古田織部より以前に、織部という陶器は産れておったのだ。もつとも、その当時は織部という名称はなかつたろうから、なんとか外の名を言っていたのであろう。今日織部と言いならすところの陶器は、利休時代に有名であつた古田織部が、やかましく好んだところから、遂に織部という名を成したのであろう。

織部という陶器を説明すると、それは素朴な絵を描いた陶器であつて、それに萌黄色の釉が所々に付けられている純日本風のものである。中国にも朝鮮にも前例のないところのものである。そ

こで、この陶器に古田織部が感心して宣伝につとめたのであろう。

世間では織部の絵は、古田織部が子どもに描かせて、その幼稚な絵を瀬戸物にうつしたのだと言っているが、そんなこともあつたかも知れないが、我々が初期織部と思うところの、所謂織部の絵は、その意匠千変万化して実に立派な意匠であると同時に、立派な絵であるとも言える。到底子ども絵ではなく、概して写生画が多い。網を張ったところに、鳥の飛んでいる絵がある。これはこの陶器の生まれた美濃の山中で網を張って、鶺鴒を獲るところを、写生したのであろう。また、草花を写生したのが最も多い。その他、手当り次第に目前に見るところのものを写していると同時に、得体の知れない全く人の意表に出ているものが図案の半ば

を占めて、大いなる特色を發揮している。一見して徳川末期に産れた織部模様などは、全然氣の違ふところのものが多い。土の作行もその通りである。

初期織部というものは、非常に精作なものであつて、徳川末期に産れた織部のような杜撰な下品なものではない。織部の特色は、器体の精作なる点と、絵のうまいことと、絵が生でなくよく図案化されていること、写生がそのままでなく、よく省略されていること、そこに草色の丹礬釉がかかっていることである。そうして、純日本の香りの高いことなどが異彩であつて、その類例が世界の何処にもないこと……などの状態によつて、人がやかましく言うようになった。

しかし、徳川末期に織部を模倣する人が、勘違いをしたために、ずいぶんくだらない織部を生んだ。そこで鑑賞家の方にも誤認が出来て、織部というものは、くだらないやすっぱいものだと考えるに至った向きもある。

そういうふうには、今の一部の鑑賞家をして誤認せしめたが、元来、織部の織部たる所以のものは、遠く足利から織豊時代に産れているのであって、精作であり、鈍重であり、且つ溫柔であり、しかも非常に雅味なものであって、絵唐津の色を美しくしたと見るべきものである。全く絵唐津を美しくしたものだと思えばいい。絵唐津のよさは、渋すぎて初学者にはわかりにくいのが、織部の方は絵の種類も非常に多いし、青いと白いとところが美しく光

っているので、言わば初学者にでも親しめるところのものだ。

この陶器は、瀬戸で産れていることだけは、従来から認識されて居ったが、その窯跡が発見されたのは、今から一年ばかり前（昭和五年頃）のことである。その窯跡から様様な破片が出た。それによって、初期織部の総ての作品を見ることが出来た。それには、今日まで我々の見たことのないものがたくさんあった。

（昭和六年）





# 青空文庫情報

底本：「魯山人陶説」中公文庫、中央公論新社

1992（平成4）年5月10日初版発行

2008（平成20）年11月25日12刷発行

底本の親本：「魯山人陶説」東京書房社

1975（昭和50）年3月

入力：門田裕志

校正：木下聡

2018年6月27日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 織部という陶器

北大路魯山人

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>